

はじめに

鳥取県教育委員会では、遊びを幼児期にふさわしい学びと位置付け、めざす幼児の姿を「遊びきる子ども」とする「鳥取県幼児教育振興プログラム」を平成25年3月に改訂しました。このプログラムにおいて、「小学校教育との連携推進」を柱の一つとし、幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、教職員の教育・保育の相互理解を図る取組を推進してきました。

本県において、接続カリキュラムの編成や幼児・児童・教職員の交流活動の実施等、幼稚園・保育所・認定こども園や小学校、地域の現状や課題等を踏まえた様々な特色ある取組が推進されており、園と小学校との連携は進んできた一方、平成28年度の幼児教育調査では、小学校入学当初における学校生活への不適応（小1プロブレム）が県内の約15%の小学校で発生している現状もあり、未然防止に向けたさらなる取組が必要となっています。

そこで、幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校の取組の参考となる平成28年・29年度実施の「鳥取県幼保小連携推進モデル事業」実施5市町村の実践例や、園と小学校の情報交換や協議による相互理解のための合同研修会等での研修例等を紹介した「鳥取県幼保小接続ハンドブック」を作成しました。

子どもたちが自ら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる基礎を培うために、幼児教育と小学校教育を確実につなぎ、園と小学校が一体となった取組が今後一層求められる中、このハンドブックが、円滑な幼保小接続に向けた取組の参考として積極的に活用されることを心から願っています。

最後になりましたが、本ハンドブックの作成にあたり、御尽力、御協力いただきましたみなさまに、深く感謝申し上げます。

平成30年3月

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志